

令和5年度 第1回 「みえ現場 de 県議会」
若者とこれからの地域づくり～聴かせてください！皆さんの声～
実施概要

1 日時・場所 令和5年11月21日(火)18時00分～20時00分
シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 大会議室

2 テーマ 「若者とこれからの地域づくり～聴かせてください！皆さんの声～」

令和5年4月の三重県議会議員選挙の投票率は過去最低(41.52%)であり、とりわけ若年層(18歳～29歳)の投票率は低い水準となりました。
また、三重県議会が実施した県議会の現状や議会改革の取組などについての県民意識アンケートでは、特に若年層において「議会の活動が分からない」との結果が示されました。
そこで今回は、当事者である若者たちが「政治」や「議会」をどのように捉えているかなどを直接聴くとともに、社会の一員として「地域社会」への貢献に取り組んでいる学生などと「若者の政治への関心を高めるための方策」や「若年層の投票率の向上」について意見交換を行い、今後の議会での議論に反映させていきます。

3 参加者等

○参加者 23人

皇學館大学 現代日本社会学部 学部長・教授 とみなが たけし 富永 健 氏

三重県内に居住・通勤・通学している17歳から29歳までの方 22人
(内訳:高校生 1人、高専生 3人、大学生 6人、社会人 12人)

○県議会議員(下線は広聴広報会議委員) 12人

議長 中森 博文	座長(副議長) 杉本 熊野	
総務地域連携交通常任委員長 喜田 健児		
委員 荊原 広樹	委員 世古 明	委員 辻内 裕也
委員 中瀬 信之	委員 東 豊	委員 廣 耕太郎
委員 松浦 慶子	委員 吉田 紋華	委員 龍神 啓介

○傍聴者 5人

4 プログラム

- (1) 開会あいさつ
- (2) 参加者の紹介
- (3) オープニングトーク
- (4) 意見交換
- (5) 意見発表・全体総括
- (6) 閉会あいさつ

5 意見交換等

(1) オープニングトーク（皇學館大学 現代日本社会学部 学部長 富永 健 氏）

○選挙の意義、なぜ選挙に行かないのか？

選挙は民主主義の根幹であり、国民主権の根幹をなすものでもある。これが選挙の意義。

なぜ選挙に行かないのか調べてみたところ、総務省の資料（令和元年参議院議員選挙時の調査結果）では、最も多いのは「選挙に関心がない」、2番目は「政党の政策や候補者の人物像がよくわからない」、3番目は「適当な候補者や政党がなかった」、4番目は「仕事があったから」、5番目は「選挙によって政治はよくなる」であった。確かに自分の1票で政治は変わらないかもしれないが、投票しなければ変わる可能性はゼロ。一票を投じるのと投じないことでは大きな違いがあるので選挙には行ってほしい。

投票率について調べてみたところ、20代の前半が一番投票率が低い。選挙ごとに差はあるが、20歳か21歳が一番投票率が低い。18歳、19歳を比べると、18歳はやや高く、19歳は少し下がる傾向がある。令和3年の衆議院議員選挙の18歳の投票率は50.36%だったのに対して、令和4年の参議院議員選挙の19歳の投票率は30.66%だった。18歳が19歳になる1年間で20%も下がってしまう。理由としては、おそらく、18歳は高校生が多いので学校で選挙に行くように案内があるものの、19歳は大学生になったり社会人になったりして、自分の意思で選挙に行くことになるからではないか。19、20、21歳と、投票率が低い年代はちょうど大学生の年齢。選挙に行く意義を聞ききっかけがないため、投票率の低さに表れているのではないか。

○皇學館大学「若者の投票率 UP!プロジェクト」

皇學館大学の「若者の投票率 UP!プロジェクト」について紹介したい。地方公共団体と一緒に、学生が地域の課題に取り組む活動で、三重県の選挙管理委員会、伊勢市の選挙管理委員会、玉城町の選挙管理委員会から若者自身に投票率向上のための活動に参加してほしいという声をもとに令和2年から始まったプロジェクト。本格的な始動はコロナの影響で令和3年からであるが、これまでにテレビやラジオのCM、チラシの作成、広報への記事作成なども行った。

○本日の議論に向けて

若者が自分で日本を、三重県をどうするかという意識を持つことが一番大事。それを踏まえて今日の議論に繋げてほしい。

(2) 若者とこれからの地域づくり【●: グループ】

- A 大学は大阪にいたが、就職で三重に戻って来た。理由は、住むなら地元だなと思っていたから。自然に住みたいと思えるまちになることが良いと思う。これまで地元に住んでいて、不自由や物足りなさを感じていないところは地元に戻ってきた理由として大きいかもしれない。
- B 周りに選挙へ行かない人がいる。行けよと言っても「忙しい」、「行っても変わらない」と言われる。政治に関心を持つというのは、若者にとって難しい。
- B 仕事で学生の就職支援担当をしているが、三重県が好きな学生が多く、三重県で働きたい人が多い。しかし働く場所が少なく、就職活動がうまくいかないため都会に出て行ってしまふ人が多く残念。
- C 若者が地域づくりに対して「ハードルを感じる」、「そのような場を知らない」ことの根本にあるのは「地域に興味を持ってもらえていない」ことなのだと思う。
- C 交通でも居住環境でも、選択肢が限られてしまうことが課題だと思う。
- D メリットがないと動かない若者が多いと思う。この先10年20年のビジョンなど、地域がいずれ盛り上がっていくというような未来に向けた話を学生に話したほうが、地元に残っていくと思う。
- E Uターンで戻ってきたくなるまちになってほしい。そのためには仕事・収入があり、土地が安く交通が便利なのことが大切。しかし、出ていく必要がなければUターンの必要もない。魅力があれば若者は戻ってきて、活気が出る。

(3) 若者の政治への関心を高めるには【●: グループ】

- A 若者に興味を持たせたいなら若者にさせたらいいと思う。予算の1パーセントとかをつけて若者だけのミニ県議会をして、同世代の人たちが考えた政策なら興味を持つと思う。選挙と同じように投票や議論もして結論を出していく。ミニ県議会から入って、市議会など地方議会にも立候補する人がでてくるのではないかな。
- A HPを見ても議会で何をやっているのかわからない。言っていることがわからないので論点がわからない。専門用語を並べられて何を言っているのかわからないから、顔で選んだり適当に選んだりして投票してしまうのではないかな。
- A 昔の選挙はもう少し祭りのような雰囲気だったと本で読んだ。対立候補同士で激論したり、エンタメ性を高めたりしたらいいと思う。
- A 中学校の時の先生に「選挙だけは行くように」と言われたので、欠かさず投票に行っている。自分の身近な人とも政治の話をしたほうがいいと思う。
- B 議員が何をしているのかわからない。三重県議会議員のことはHPでしかわからない。日常がYouTubeでわかれば良い。政治家が何をしているのかわからないから、だれを選んでいいかわからない。

- B** 興味がない人に議会のことを見てもらうことが目的であれば、動画なら 10 秒～20 秒ぐらいまで。今日の議題と結果だけをまとめる。たまたま動画が流れてきたとしても、10 分の動画であれば、途中で見るのをやめてしまう。興味を持てば 10 分でも見ると思う。
- C** 情報の発信に取り組んでもらっているとは思いますが若者には届いていない。若者がそれをキャッチしようとしていない現状があると思う。根本を解決しないと関心は高まらない。
- C** 中学校の授業で、今日みたいな政治について議論する場があるといいかもしれない。知識も深まる。
- D** メリットを示すことが大事だと思う。マニフェストなど出してもらっているが、もっと噛み砕いて発信してもらおうと思う。
(例 ×「交通を便利にします」 ○「A 地域から B 地域までバスを通します」)
- D** 10代前半の子どもに政治に興味を持ってもらうには危機感をもってもらうしかないと思う。若者に関心があるトピックを示してあげて、1票で何か変わるかもしれないということも教えてあげるのが大事だと思う。
- E** 投票率を上げるには、自分たちの声が政治に反映されると関心が高まると思う。その成功体験を持っているのは高齢世代。若者にそのような成功体験があると政治への関心が高まると思う。
- E** 政治(家)が嫌いでも、その反抗の仕方として、「投票しない」という行動に結びついてるのがダメ。「別の候補に投票する」という反抗の仕方もあるという教育も必要。
- E** 公約とかは凄くスケールが大きいものが多くて、自分には関係ないと思ってしまう。小さなことでも吸い上げて議会で提案いただける機会があるといい。
- E** 若者と議員の距離があると言うが、直接会って意見を吸い上げる機会がないから、遠い人に見えて、不信感にも繋がっていくかもしれない。その距離が近づくようになると良いと思う。

(4) 総括 (皇學館大学 現代日本社会学部 学部長 富永 健 氏)

若い参加者は積極的に発言し、議員はそれを受け止めていた。非常に良い会だった。なかなか政治家の方と接する機会はないけれども、今日参加した方は自由に意見を述べていただいたと思うし、その思いを受け止めてくれる議員の方がいるということが分かったと思う。これで三重県の政治がよりよくなるのではないかと感じた。

以上

令和5年度 第1回「みえ現場 de 県議会」
若者とこれからの地域づくり～聴かせてください！皆さんの声～

アンケート結果

○当日の参加者・傍聴者 40人

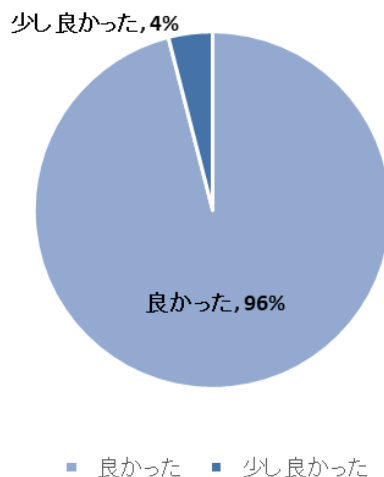
《内訳》・参加者 35人（参加者 22人、大学教授1人、三重県議会議員12人）
・傍聴者 5人

○アンケート回答者 25人

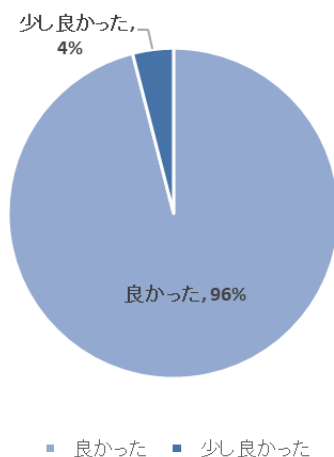
《内訳》・参加者 22人（回答率 100%）
・傍聴者 3人（回答率 60%）

Q1 本日の会議の感想をお聞かせください

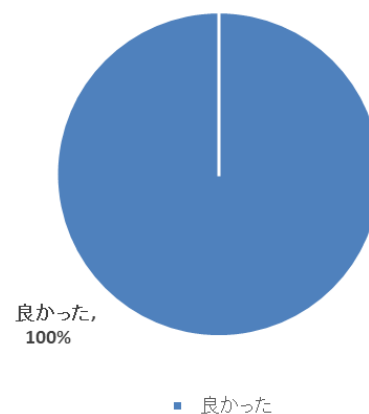
<全体（参加者＋傍聴者）>



<参加者>



<傍聴者>

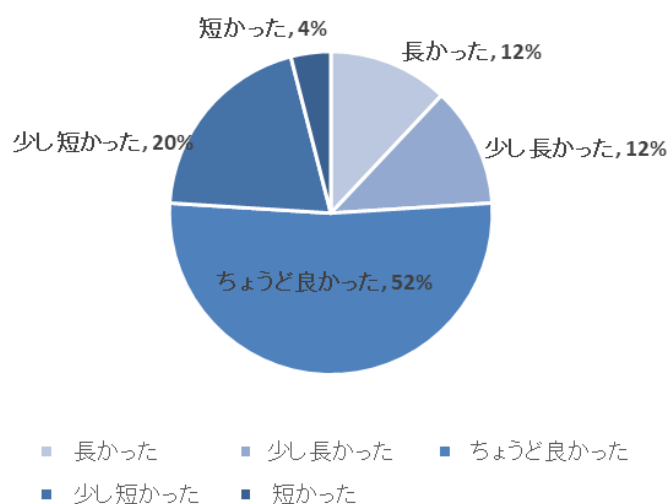


Q 2 本日の会議についてお気づきの点がございましたらご記入ください

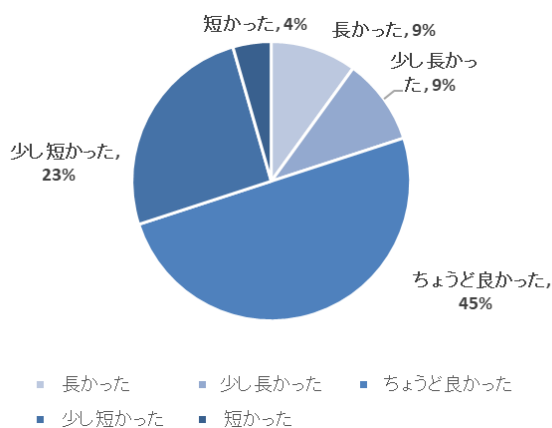
- ・議員に親近感が湧いた。よりよい三重県に変わるのではないかと期待感が持てた。
- ・議員の方の意見を気軽な感じで聞くことができ、良い機会となった。
- ・議員さんが積極的に話をふってくれたおかげで話を広げやすかった。
- ・始めの方の意見が出づらい時間帯も気まずくならないように話を振ってもらえて助かった。
- ・グループトークは議員と接点が生まれたのは良かった。
- ・身近なことの議論ができて楽しかった。
- ・気楽に話すことができた。
- ・話しやすい雰囲気が良かったです。
- ・様々な意見を聞くことができ、新しい考えを見れました。
- ・自分にはない意見がたくさんあって、大変参考になった。
- ・自分の意見をしっかり検討していただいた。
- ・ふだん関わりのない方（議員、参加者）と話す機会があつてよかったです。
- ・議員さんはなしすぎかも

Q 3 本日の会議の時間の長さについて適切であったかお聞かせください

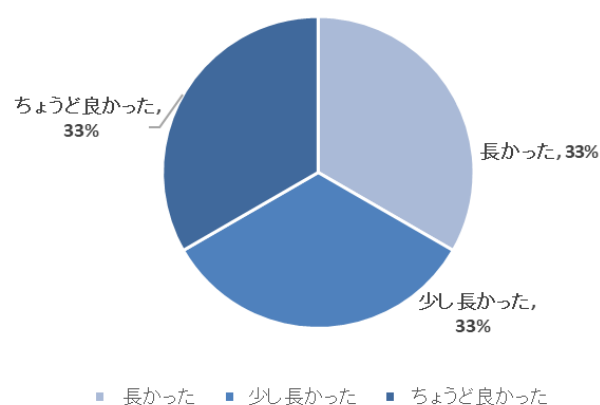
<全体（参加者＋傍聴者）>



<参加者>



<傍聴者>



Q 4 今後の「みえ現場 de 県議会」の開催テーマ・開催場所などについて、ご提案がございましたらご記入ください

- ・小規模でも良いので各市町村すべてで開催されてもおもしろいかなと思いました。
- ・女性、若い議員さんふえてきていいことだと思います。関心がみんなに広がるような機会をふやして下さい。
- ・議員と十代しゃべり場